

令和6年度

京都府立綾部高等学校由良川キャンパス(東分校)

定時制課程

学校経営計画

(スクールマネジメントプラン)

実施段階

令和6年度 京都府立綾部高等学校(東分校定時制) 学校経営計画(スクールのマネジメントプラン) (実施段階)

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
・学力の向上と進路希望の実現 ・基本的生活習慣の確立 ・基本的人権を尊重する態度と豊かな人間性の育成 ・健康及び体力の維持向上 ・地域社会から信頼される学校づくりの推進	(成果) ◇「子どもの知的好奇心をくすぐる授業」、「高校生伝統文化体験(茶道)」などの事業を有効に活用とともに、「全校理科実験学習や合科授業」を企画運営することができた。多様な体験的な授業や外部講師を招いての授業を通じて、生徒は日頃体験することができない経験をすることができ多くの成長につながった。また、SDGsの目標達成に向けて生徒の一人ひとりが、意識を高めることができた。 ◇ICT関係については、教員のスキルアップを図り、タブレットやPC室を活用した調べ学習、生徒の意見交流等、効果的な授業展開を進めている。 ◇コミュニケーション力に課題があり中学校で学校に適應できなかった生徒についても、暖かい雰囲気の中、落ち着いて学校生活を送ることができており、進級や卒業へつなげることができた。 ◇外部機関と連携し、進路決定につなげることができた。また、卒業後の相談機関を紹介することもでき、4年生(卒業生)が、より安心して卒業することができた。 (課題) ◆特別な支援が必要な生徒の指導が適切にできるよう、教職員研修や教職員間の意思疎通を充実させ、教職員一人ひとりの指導力や知識を向上させるとともに、外部機関とも適切に連携をとりながら、指導や支援にあたる必要がある。 ◆保護者とのつながりをより密なものとするにより、生徒が必要とすることを共有し、家庭での協力を得やすくする。 ◆比較的活動的な生徒会であり、さらに自分たちで企画・立案や運営をできるように支援し、生徒たちの自己達成感を高めたい。 ◆中学生がより適切な志願校を決定できるように中高連携をし、より適切な情報を伝える。	■3Q+4Sの推進 3Q <Quality Teacher> 教師としての資質向上 <Quality School> 教育内容の充実 <Quality Students> 未来を切り拓く人材の育成 4S <整理><整頓><清潔><作法> ■A・G・P(Ayabe Global Program)の推進 <高い人権意識に基づく教育活動の推進> ●自他の生命と人権を尊重する意識や態度の育成 ●多様性を尊重し多様な人とつながる姿勢の育成 ●あらゆる場面で一人一人を大切にする指導の実践 <自らの生涯を豊かにする力の育成> ●自らの将来に目を向け、目標に向かう挑戦や努力を支える学校づくり ●興味・関心を刺激し、課題発見や解決、探究的な学びを進める指導の実践 ●学びに向かう力や主体的に学び考える力の育成 <社会に通じる力の育成> ●礼儀、健康的な生活習慣、規範意識を身に付ける指導の実践 ●様々な学びを通じた「自己肯定感」の醸成 ●仲間とともに高め合い、協働して取り組む姿勢を応援する学校づくりの実践 <教育環境の充実> ●安心・安全に学ぶことができる教育環境の構築・整備 ●様々な課題の解決や克服に向けた家庭や地域、関係機関との積極的連携 ●1人1台学習用端末活用のための校内協力体制のさらなる強化 ●本校での学びや取組への理解の深化のための積極的広報 ●教職員の働き方改革をねらいとした業務の精選や組織づくり

分掌・教科	項目(重点目標)	具 体 的 方 策 及 び 数 値 目 標	評 価		成 果 と 課 題
1 組織運営	・生徒が登校したくなる魅力ある学校づくりをし、出席や授業参加へつなげる。 ・多様性を認め合える仲間作りを推進し、生徒の自己有用感・自尊感情を高める。	・積極的に日々のあいさつや声かけをすると共に、京都府等の各種事業を活用した体験や講演を多く実施する。	B	B	・あいさつや声掛けをし、生徒が安心して前向きに学べる環境作りを心掛けた。各種行事等も生徒にとって魅力的なものであったと判断する。生徒にとってより魅力的な学校作りを進めたい。 ・生徒会活動や行事等を中心に、自ら積極的に関わり貢献しようという生徒が増えてきた。更にそのような雰囲気を醸成したい。
		・あらゆる教育活動を通じて自分の役割を果たす、積極的に取り組む等の力をつけさせる。	B		
2 教務部	・授業の改善に努め、学力を向上させる	・校務システムを効果的に運用し、教務関係文書を正確に遅滞なく作成する。	B	B	・校務システムと連絡会を活用して、生徒の状態を把握することができた。 ・教科補習が必要な生徒に対して、補習を行った。
		・教科担当・学級担任に教務関連情報を確実に伝達し、職員の意思統一を行う。	B		
		・補習などを効果的にを行い、生徒個々の学力を向上させることにより、全員を卒業進級させる。	C		
3 生徒指導部	・安心安全な学校づくりを行うために、授業規律や授業マナーの指導に重点を置く。 ・豊かな人間性を育むために、体験活動を重視した教育活動を増やしていく。	・欠席を減らす為、学校行事や体験活動を充実させる教育活動を増やしていく。	B	B	・体育祭や文化祭等、生徒会担当が中心に、生徒会主体の取り組みとなり、欠席・見学者が減り、良い取り組みとなった。 ・問題事象には、校内で議論を重ね、役割分担し対応に当たった。挨拶や服装など規範意識の向上に取り組んだ。 ・関係機関と連携し、各学習に取り組む大きな問題はなかった。
		・各部・関連機関と連携しながら、問題事象等に毅然と、また丁寧に指導を行う。	B		
		・各関係機関と連携して、薬物乱用防止学習、交通安全学習、非行防止学習等を適切に実施する。	B		
4 進路指導部	・希望進路の実現に向けて、生徒個々の状況に応じた進路指導を行う。	・学年に応じた進路学習を計画的に実施し、進路意識を高める。	B	B	・生徒の実態に応じた進路学習の取り組みを実施した。 ・4年生には各生徒に対して丁寧な進路指導を行い、それぞれが希望する進路を実現することができた。 ・LHRの時間を利用して、小説・随筆などの書き写しを行った。
		・4年生個々の進路希望に合わせた支援を丁寧にを行い、希望進路の実現を目指す。	B		
		・進路希望の具体化が困難な生徒に対して、関係機関と連携しながら丁寧な支援を行う。	B		
5 保健部	・心身ともに健康な学校生活を送れるよう、自己管理能力の育成を図る。	・担任・保護者等と協力し、要観察生徒の専門医への受診率向上に努める。	B	B	・日々の連絡会において、生徒のさまざまな情報について、教職員への情報共有を心がけ実践できた。 ・SC面談を受けている生徒や保護者に関して、SCとの連携によって、担任や生徒それぞれへの対応や連携に活かせた。 ・保健便り等で、心身の健康に関する情報を発信してきたが、生徒の健康に関する真の行動につながりにくい実態があり、今後保健部長講話の内容などを更に工夫して行う必要がある。
		・生徒一人ひとりに応じた適切な支援ができるよう、日々の情報共有や実態把握を行う。	B		
		・「保健だより」を月1回発行する。	B		

分掌・教科	項目(重点目標)	具 体 的 方 策	評 価		成 果 と 課 題
6 人権 教育部	・人権意識を高める学習を行い、生徒に人権意識を根付かせ、いじめのない学校生活を送らせる。 ・奨学金制度の周知徹底を行い、進学や就職に際しての金銭的な不安の解消に役立てる。	・基礎学力定着のために、個に応じた指導方法の工夫改善を行い、希望進路の実現を目指す。	B	B	・授業やHRの時間を利用し、生徒同士の話し合いの機会を多くつくり、他者を認め合い相互理解できるように努めた。 ・金銭面で支援を必要とする生徒に対し、奨学金給付の勧めを行い、受給者を増やすことができた。 ・定期的に個人面談・三者面談を実施し、生徒把握・保護者等の意向把握をし、希望進路の実現を果たせた。
		・人権意識を養うため、講演等の特設人権学習を年に2回実施する。	B		
		・各学年部と連携のもと、生徒への奨学金制度の周知徹底に努め、希望者には適切な支援を行う。	B		
7 第1 学年部	・定時制課程を生活の中心にすえた基本的生活習慣を確立させる。 ・生徒一人ひとりの様子を把握し、きめ細かい生徒指導・学習指導を行う。	・生徒の心身の状況をつかむために毎日の健康チェックの確認や声かけをし、教職員で情報交換していく。	B	B	・毎日、生徒が登校したかどうかを確認しつつ、健康チェックや声かけをすることができた。自立に向けた生活習慣の指導や高校卒業後の進路などを、月1回の個人面談で話することができた。
		・他者を認め合うクラス作りをすすめるため、自己を大切にし多様性を意識させる。	B		
		・定期的に面談を行い、生徒の状態を把握し、自立に向けた生活習慣・進路指導を適宜実施する。	A		
8 第2 学年部	・生徒それぞれの状況を把握し、生活・学習面において自らを律して行動ができるように指導を行う。 ・家庭や学校での豊かな交流により社会性を身につけ、人間性を育成する。	・挨拶をはじめとする毎日の対話を通して、生徒の状況を把握する。	B	B	・他者理解に重点をおいて指導を行った。授業やHRの時間を利用して話し合いの機会を設け、相互理解を進めることができた。 ・日々の健康・安全点検をし、生徒の健康被害・事故等の発生を未然に防げた。 ・定期的に個人面談の実施や三者面談を行い、生徒の実態把握・保護者の意向把握をすることができた。
		・教科担当等の教員と連携を密にとり、必要に応じて生活・学習支援を行う。	A		
		・面談を通して、自立に向けた生活習慣・進路指導を適宜実施する。	B		
9 第3 学年部	・欠席を減らす ・保護者等との連携を密にし、個々の課題を改善する。 ・生徒全員の進級及び希望進路の実現を目指す。	・登校するのが当たり前という意識を持たせる。	B	B	・欠席の多い生徒には、声掛けを行い、目標も持たせることにより欠席を減らした。 ・保護者等とも人間関係を築き、共に欠席を減らす取組が出来た。 ・欠席を減らすことにより成績も向上した。
		・保護者等と共に指導にあたる。	B		
		・定期的に面談を行い、生徒の状態を把握し、自立に向けた生活習慣・進路指導を適宜実施する。	B		
10 第4 学年部	・生徒全員の卒業及び希望進路の実現を目指す。 ・基本的生活習慣を確立させる。 ・生徒一人ひとりの様子を把握し、他教員と共有し。全体を通してきめの細かい学習指導を行う。	・進路決定に向けて、生徒同士で高め合えるようなHR経営をする。	B	B	・生徒との面談を毎月実施したほか、普段から生徒と会話をすることに努め、生徒の実態を的確に把握し、自尊感情の高揚につなげることができた。 ・職員間で密な連携を行い、教員集団として同じ方向性で生徒の指導を行うことができた。 ・HRや総合的な学習の時間で、進路学習を行い、生徒の進路実現に役立てることができた。
		・定期的に面談を行い、生徒の状況を把握し、自立に向けた生活習慣・進路指導を適宜実施する。	B		
		・自己を大切にし、他者を認め合えるクラスづくりをすすめる。	B		
11 国語科	・社会生活において必要な国語について、その特質を理解させ適切に使用できるよう指導する。 ・言語活動を通じて、生徒の思考力や想像力、表現力を育成する。	・語彙力向上のための学習の機会を週に1回以上確保する。	B	B	・漢字について勉強する機会を週1回確保することができた。今後も、よりよい教授方法を模索していく。 ・生徒が学んだことを振り返る時間を確保することができた。今後は、定期的な復習テストに取り組みたい。 ・単元のまとめとして、意見文や感想文等を書かせる時間を確保することができた。定期的に取り組みたい。
		・生徒の理解促進のために毎回の授業内容を振り返る時間を確保する。	B		
		・単元のまとめとして、自分の考え・思いを表現する時間を單元ごとに確保する。	B		
12 地歴 公民科	・地歴・公民の基本的な事項を理解し、知識として定着させる。 ・社会に出た時に必要な知識や能力、特に自分の意見や考えを持ち、それを相手にわかりやすく伝える能力を身に付けさせる。	・生徒の実情に応じた教材を精選する。	B	B	・生徒の特徴や学習レベルなどを理解でき、彼らに適した授業をすることができた。 ・リアルタイムのニュースの教材化については、来年度に改善していきたい。
		・パワーポイントを利用した教材と授業プリントを用意し、授業への関心を高め、知識の定着を図る。	B		
		・リアルタイムのニュースを教材化し、社会への関心を持たせる。	C		
13 数学科	・数学の基礎的・基本的な知識技能を身につけ、教科書の内容を理解させる。 ・授業、テスト勉強、テストの学習の習慣を身に付けさせる。	・授業形態や考查方法を工夫し定期考查と日々の学習を繋げる授業を実践する。	B	B	・授業内容と定期考查、テスト勉強のシステム化を図り、学習習慣を身に付けさせることが出来た。 ・高校のカリキュラムを理解させ、達成感を感じる学習内容となった。
		・特に数学に苦手意識を持つ生徒に対し、わかる授業を目標に、達成感を感じさせ、満足度を上げた。	B		
		・ノートを使った学習を中心に学習習慣をつける。	B		
14 理科	・身近な事柄から理科に対する興味を持たせ、社会生活に必要な科学的知識・能力を身につけさせる。	・理科に興味を持たせるため、演示実験や持ち込み教材・ICTを活用する。	B	A	・日常的な事柄と学習内容を関連させるために、全校生徒を対象にした社会人講師の活用や科学ニュースを扱った新聞等を利用することができた。 ・知識を定着させるための補助教材プリントを使用して、毎時間提出・毎時間評価することができた。
		・自然や日常的な事柄と学習内容を関連させるため、社会人講師の登壇や新聞等を利用する。	A		
		・理科における計算・知識を定着させるために、教科書以外に補助教材として、プリントを使用する。	A		

分掌・教科	項目(重点目標)	具 体 的 方 策	評 価		成 果 と 課 題
15 保健体育科	・保健、体育の授業を通して、生徒が心身ともに健康的に日々の生活を過ごすことができるための授業を展開する。 ・生涯スポーツの観点から、多くの項目を通して卒業後もスポーツに積極的に触れ合う姿勢を育成する。	・積極的に授業へ参加できるようスモールステップで活動を行っていく。	B	B	・スモールステップで授業を行うことで苦手意識を減らすことができた、生徒全員が参加する授業を展開することができた。 ・ICT機器や教育用アプリを使用することで同時に生徒同士の見方・考え方を共有することができ、健康的な生活習慣について一緒に考えることができた。 ・得意、不得意があったとしても様々なスポーツを経験することで知識、技能を身に付けることができた。
		・保健の見方・考え方を働かせる授業を展開し、健康の保持増進に繋がる知識の定着を図る。	B		
		・多くのスポーツに触れ合う機会を持たせるため、1年間で7種目以上の生涯スポーツに取り組む。	B		
16 英語科	・日常生活の中で使われる英語に気づき、身近なものであることを実感させ、自分で学ぶことができる力を育成する。	・ICT教材を使って、英語への関心を高め、理解を深めさせる。	B	B	・全ての学年の授業で、i-Padを使って教えることができた。 ・授業中に、i-Padで問いを出し、解答させることができた。 ・単語テストを実施して、点数化することができた。
		・生徒が授業内容の理解を深めるために、授業中に課題を出し、思考、判断、表現させる。	B		
		・生徒に知識を定着させるため、単語テスト等を実施して理解を深めさせる。	B		
17 芸術科	・基礎技術を充実させ、自ら表現する意欲を育てる。	・授業規律を大切にする。	A	B	・生徒たちは、まじめに取り組むことができた。意欲的・主体的に取り組むということ、さらに求めていきたい。 ・生徒の意欲を引き出す指導を心掛けて指導した。
		・個別指導を重視し、完成度を高める姿勢を身につけさせる。	B		
		・基礎から高度な内容まで表現できる幅を広げさせるため、技術差のある生徒が取り組める課題を取り入れる。	B		
18 家庭科	・自立する力を育成する。	・身近な事柄を教材として選び、生徒の興味・関心を引き出すよう工夫する。	A	A	・調理実習・被服製作等、意欲的に取り組むことができた。 ・ほかの分野も取り入れていきたい。
		・体験的な学習課題を多く設定する。	A		
19 情報科	・現代社会における必須アイテムであるパーソナルコンピュータの基本的な操作を習得させる。	・タイピングの練習に力を入れ、文書作成ソフトによる反復練習を行い、文書入力量を重視して評価する。	A	B	・タッチタイピングの反復練習を行うことができた。今後も継続していく。 ・プログラミングに取り組み、行動の順番について考えさせることができた。取組回数を増やしていきたい。
		・プログラミングに取り組みさまざまな事柄の行動順序を身につけさせる。	B		

学校関係者 評価委員会 による評価	四ツ尾山キャンパス(普通科)、由良川キャンパス(農業系3科)、定時制(普通科)でのそれぞれの取組や結果を高評価していただきながら、以下のような御意見をいただいた。 - 令和7年度入学者選抜の志願者状況(特に四ツ尾山キャンパス)を見て安堵している。中学生に選んでもらえる魅力的で、生徒にとって楽しい学校というイメージが定着しているようである。 - 綾部高校では、必ずしもペーパーテストで高得点をとるものではない学力(非認知能力)育てていることをさらにPRすればよい。 - 地元農家の困りごとを直接聞き、高校生(学校)がサポートや解決するという取組をしてみてもどうか。 - 米の生産量そのものを増やす必要があり、農業の担い手の育成は必要であり歓迎される。 - 定時制生徒の卒業式での答辞は素晴らしかった。 - 定時制には一定の役割があり、志願者数や生徒数が少なくとも生徒の育成に努力してほしい。
-------------------------	---

次年度に 向けた改善 の方向性	4年生の進路決定率100%(5／5)、年度途中での進路変更2名という結果であった。あずかった生徒を進級・卒業させるという定時制としての役割はある程度果たせた。 - 定時制の少人数クラスの方が適していると思われる中学生が進路選択上のミスマッチをしないために、定時制の特徴や良さを理解してもらえるよう、中学校教員へ向けての学校紹介や案内を活性化し、就学相談員との連携を密に行う。 - 定時制へ通う生徒の理解を更に深め、教職員間の協力体制をより強固なものにし、特別支援対象についてもより柔軟に適用し、学力伸長、進級・卒業、進路希望実現へとつなげる。
-----------------------	---